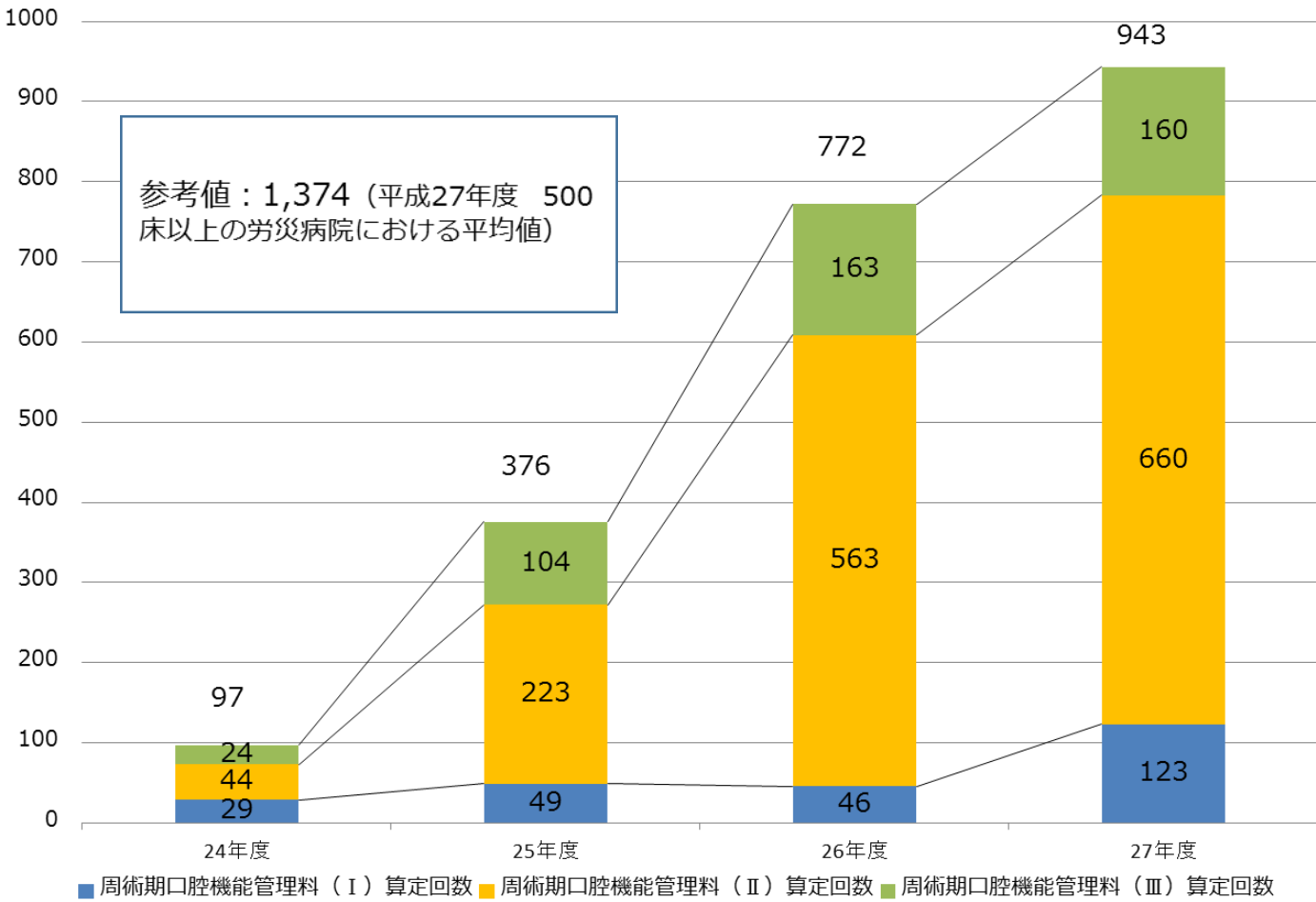


33 周術期口腔機能管理料算定件数

指標の解説

- 周術期における口腔のトラブルや合併症を防ぐことで、術後のQOL向上につながり、併せて医療費負担を減らすことができる。
- 周術期での口腔管理件数が多ければ、周術期における患者管理の質が高いと言える。
- 周術期口腔機能管理料とは、がん等により手術を行う患者の周術期における口腔管理を行うため、計画に基づいて口腔機能の管理を行い、管理内容に関する情報を文書により提供した場合に算定できる管理料である。
- 同管理料(Ⅰ)は手術を実施する患者の入院前後において、同管理料(Ⅱ)は手術を実施する患者の入院中において、同管理料(Ⅲ)は放射線治療や化学療法を実施する患者において口腔機能の管理を行った場合にそれぞれ算定できる。



歯科口腔外科では、当該管理料が新設された24年度より、周術期口腔機能管理に対する取組みを強化しており、件数は右肩上がり推移している。